

ACCR/Central Rally2019

参加車両規則書

Vol.3

本ラリーはJ A F公認準国内競技として開催されるため、参加車両規則も 2019 年 J A F国内競技車両規則 第2編 ラリー車両規定 第2.5条R F車両規定に定義される条件を満たしてなければならない。

特に下記のACCR特別規則および安全項目に関する規定については、公式車両検査において確認するので、十分注意し準備すること。

【ACCR特別規則】

△参加可能な車両

ACCR 本戦クラス：

1993年までに生産された車両およびその同型車（マイナーチェンジを含む、エンジンも同型車）で車検を取得し、一般行動を走行できる車両に限る。

また、一般公道を走行するためには、車両の最低地上高である 9cm をクリアしていなければならない。

△車体カラーリングについて

車両製作に当たっては、クラシックカーのラリーイベントであることを踏まえ雰囲気を考慮して仕上げる。奇抜なボディーカラー（蛍光色など）は禁止。

ただし、当時使用されていたカラーリングであることが認められた場合には許可する。

【参加クラス】

- ・ Vintage クラス 1965年までに生産された車両
1300cc 以下/2000cc 以下/2001cc 以上
- ・ Classic1 クラス 1975年までに生産された車両
1300cc 以下/2000cc 以下/2001cc 以上
- ・ Classic2 クラス 1993年までに生産された車両（1989年までの同型車）
1300cc 以下/2000cc 以下/2001cc 以上
- ・ F クラス 1993年までに生産された車両の内、年式に拘わらずエンジン
載せ替え等、大幅な改造をしている車両
1300cc 以下/2000cc 以下/2001cc 以上

全てのクラスでブレーキキャリパー&ロータの変更は安全上の配慮により認める。

ターボ&スーパーチャージャー&ロータリーは排気量を 1.5 倍として計算する。

<大幅な改造の例>

- ・ 競技車輛として製造された車輛
- ・ 他メーカーのエンジンを積んだ車輛
- ・ 型式認定以外のエンジンを積んだ車輛
- ・ ミッションケースを変更した車輛
- ・ オーバーフェンダーへ変更した車輛

*参加クラスは、車両の製造年度を基本とし、それぞれのオリジナリティを考慮した各クラスを設定する。

*参加車両の少ないクラスが発生した場合は、クラスを統合する場合がある。

*チューニングのレベルについては自己申告を原則とするが、チューニングの内容によっては再車検を実施する。また、事実と異なる場合は賞典外とする。

【参加資格】

△全日本ラリー出場経験のある者、又は ACCR Practice に参加し、講習を受けた者に限る。

△ドライバー及び、コドライバーは国内 B ライセンス取得を義務とする。未取得者は速やかに ACCR 大会事務局に申し出を行い、取得すること。(JAF 会員になっていること)

【安全規定】

△ロールケージ/ロールバー

2019年 J A F ラリー車両規定 第2章 第4.2.1条に沿った R F 車両用ロールゲージを装着すること。但し、初年度登録が 2002 年以前の車両については R B 車両として参加を認める。クルーの保護を目的に参加車両は 6 点式以上のロールケージ/ロールバーを装着することを義務とする。オープンカーについては鉄 or アルミ製のハードトップの装着を義務とする。

メインロールバーは、車体下部の堅固な構造材にしっかりと取り付けられ、ドライバーが運転席に着席した状態でヘルメットの先端よりも高くなければならず、かつその幅はドライバーの肩より広くなければならない。なお、通常の運転姿勢におけるドライバーのヘルメットは、いかなる場合であってもロールバーと接触してはならない。

ロールケージを構成するパイプの仕様は、材質は冷間仕上継目無炭素鋼(引抜鋼管)とする。円形の断面を有する継目のない1本のパイプを使用すること。最小寸法は40mm(直径)×2mm(肉厚)とする。

＊車両の構造上、規定通りに不可能な場合は事前に許可を得ることとする。

＊オリジナル車両がボディ内部にロールバーを内蔵するなど、ロールバーが装着されていなくても参加を認める場合があるが、事前確認を得ること。

△けん引用穴あきブラケット

2019年JAFラリー車両規定 第2章 第6条に沿った けん引用穴あきブラケットを装着すること。

すべての車両は、前後に車両をけん引しうる強度/取り付け部分をもつリング状、または鋼板に穴をあけたけん引用ブラケットを備えること。

このけん引用穴あきブラケットは、黄色オレンジあるいは赤色に塗られ、明らかに確認できるようにする。

また、強度が十分耐えうるベルトフックタイプや、車両に標準で搭載されている脱着式牽引ブラケットも使用可能とする。

△安全ベルト

2019年JAFラリー車両規定 第2章 第2条に沿って 安全ベルトを追加装着すること。安全ベルトは、ターン式バックル、あるいはレバー式のワンタッチ式フルハーネスタイプなど、4点以上の安全ベルトを装着することを義務とする。

△消火装置

2019年JAFラリー車両規定 第2章 第3.1条に沿って 手動消火装置を搭載すること。1つ、あるいは2つの容器で粉末2kg以上の内容を装備すること。

消火器は製造年月日から2年以内のものとする。(消火剤の充填期日もしくは前回の点検期日から2年を過ぎて使用してはならない)また、ドライバーやコドライバーが速やかに操作できる状態で車室内に搭載しなければならない。また、クラッシュ時、急減速度がいかなる方向に加えられても耐えられるように車室内に取り付けなければならない。

△競技車両に搭載する物

非常用停止表示板(三角停止板)を2枚、非常用信号灯を1点、救急薬品セットを1点、牽引用ロープ、A3版の”OK“”SOS“カード(車内の取出ししやすい位置に置くこと)を

搭載することを義務とする。

△公式車両検査で不合格となった場合

改造および付加物取り付けなどにより技術委員長が安全でない車両と判断した場合、その指示に従い自車のスタート時刻30分前までに改善し、再車両検査に合格しなければ出走できない。

△クルーの安全

2019年国内競技車両規則第4編 付則ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則に従ったヘルメットおよびレーシングスーツを着用すること。また、グローブも着用すること（コ・ドライバーは任意）。

* また、フェイスマスクの着用を強く推奨する。

* レーシングスーツは、防炎性素材生地を使用している一体式であることを強く推奨する。

* 本競技会においては、頭部および頸部の保護装置（FHR システム、HANS 等）の装着を強く推奨する。

△タイヤ&ホイール

基本的にはラジアルタイヤで、尚且つ下記のメーカーブランドとする。

ヨコハマ NEOVA

ブリジストン 71R

ダンロップ ZIII

クムホ V700

これ以外の場合は、ACCR 競技委員まで確認すること。

ホイールはノーマルに対して縦方向2インチまでUP可能。

タイヤサイズの幅は2サイズまでUP可能。

△マフラー音量

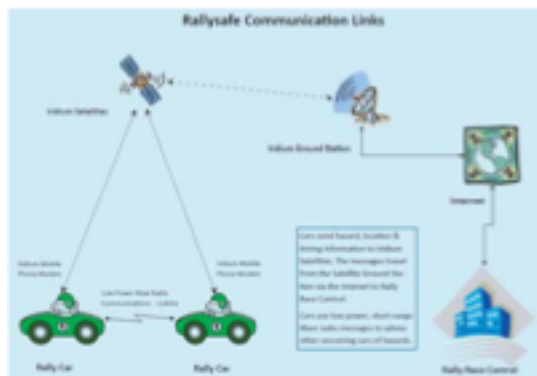
マフラーの音量は、それぞれの車種ごとにおける車検の規定の範囲内の音量とする。但し、旧車両で排気音量が大きい事は理解するが、今まで開催されたACCRにおいてリエゾン区間の排気音が非常に大きいと、地域住民や所轄官庁より指摘を受けているので、リエゾンや住宅地街の走行では大きな排気音量を立てない様、十分注意して走行すること。

△GPSセーフティートラッキング装置取付けの義務付け

本ラリーでは Rally Safe のトラッキングシステムを安全上および競技進行の安全上の理由により全車取り付けることとする。

トラッキングシステムとはイリジウム衛星とローパワー無線を利用したトラッキングシステムを車輻に搭載することにより同じシステムを搭載している前走車が停車もしくはスローダウンをモニターで確認ができる。また前方に車輻が停止している場合にコースクリア (OK) もしくは緊急サポート (SOS) の情報もモニタースクリーンに表示されるシステムである。

機能及び取り付け等の詳細はウェブサイトを確認のこと。



<http://rallysafe.com.au/>

△貸し出し機器

Rally safe Unit 本体

(右写真のディスプレイ部)

自身で事前準備が必要な機器

アンテナキット

(右写真ディスプレイ以外の機器)

GPS アンテナ

取り付けブラケット

電源ハーネス



アンテナキットをお持ちでない方は

事務局に依頼し購入すること。(販売価格 25,000 円)

2020 年以降の JAF 戦では順次 Rally Safe の利用が義務付けられる予定です。全日本ラリーモントレイ及び、ラリー北海道に参加された方は購入済みかと存じます。

※価格の訂正がございました。